
もはや人間ではない

上口司

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

もはや人間ではない

【Nコード】

N44610

【作者名】

上口司

【あらすじ】

宇宙人と人間のお話。星新一風。パロディ要素あり。

あるときB座α星の第四惑星から宇宙人が侵略してきた。

ワープ航法を実現し、遙か何十光年と離れた星系から飛来したのである。

地球のたくさんの国が彼らを相手に戦争したが、我々よりずっと進んだ兵器をたくさん使用してきたので、米軍も国連軍もあっけなく負けてしまった。

まもなく宇宙人たちが、この地上で一番強い存在になった。

彼らはダゴン人といい、腕が八本あることと、水中でも呼吸できることと、体色を自由にさまざまな色に変えられることと以外は人間によく似ていた。

彼らはホワイトハウスを占拠してスピーチを行い、ニャルラトホテプ代表は「地球人たちはいつまでも戦争を繰り返して極めて幼稚で愚昧であるから、我々が代わりにこの惑星を調停する支配者になる」と述べた。

彼らはまず、太平洋上に海上都市を建設し、自分たちの国とした。

そしてそこに来る人類たちに進んだ科学技術を教えることを条件に、食糧や資源を要求した。もっとも彼らは黄金やダイヤモンドには興味を示さず、資源となる化学物質のほうをほしがった。

また、そこからあまたの宇宙人たちが地上に行脚して、地球上の国々の内情を軌道上をぐるぐる回っている彼らの宇宙船に伝えた。

現実彼らのおかげで核融合や恒星間移動航法など今まで人類の科学者たちが何十年が悩んでも完成されることのなかった全てが確立さ

れ、膨大な恩恵を手にすることができた。全て彼らのおかげである。

ところで人類は彼らの言葉を覚えさせられたが、何せ発声器官そのものが違うので、いつまで経ってもできるようにならなかった。ダゴン人たちは地球人の発音練習の滑稽なさまを無様だといって笑いのにした。一部には声帯を手術して、ダゴン人の言語を喋れるようにしようとするものまで現れた。

一方ダゴン人たちのほうには、曲りなりとも人間の言語を覚えたものたちがいたが、彼らの英語が多少訛っていても文句を言うものはいなかった。

やがて地球人たちの中には、地球人の文化は俗悪で、彼らこそ真に知性が発達していると言い出す人々があらわれた。同じ頃世界中の若者たちの間では、作り物の足を余計に四本つけたり、赤色や緑色のボディペインティングが流行していた。

地球人のメディアは毎日のようにこぞって彼らの生活をハイステージであるだのファッショナブルであるとしてテレビ番組や新聞でとりあげ、海中に集合住宅を作って暮らしてみたり、慣れないダゴン人風の食事をおいしそうに食べるのがステータスになった。

もつとも、セルロースまで分解できる彼らの強力な消化器官と比べて貧弱な人類の胃袋では、彼らの食事をどうやっても楽しめなかったわけだが。

こうしたものの多くは、ダゴン人の文化に対する間違いだらけの理解であつたため、それらはさらに彼らのジョークのネタにされた。

しかし彼らの高等数学やその他の学問のレベルは実際、地球人たちのそれより多少優れているだけだったが、彼らの持つ無尽蔵な技術

力の話が一人歩きして、神様のように祭り上げられ、崇拜されるようになってしまった。

地球人の女たちには「人間の男なんて気持ちが悪い、脚が八本あるダゴン人子供を産みたいわ」などと言い始めるものもいた。

危機感を募らせた男たちは、反ダゴン人キャンペーンをしたが、ここまで広まってしまった彼らの影響力を抑えつけようする試みの大半は数々の反発にあい、失敗に終わった。

かのニヤルラトホテプ代表のスピーチから65年ほど過ぎただろうか。

私が祖国の国会議事堂には彼の銅像が建設され、どのラジオ局をつけてもダゴン人の言語のニュース番組しか聞こえてこない。劣った人類の文化や言語を身につける必要はないらしい。

私は学校の教師をしていたが、国際宇宙ステーション留学時代はダゴン人に散々いじめられた。それでも彼らの言語を学び、ようやく帰ってきたと思ったらこれである。

人類とダゴン人の混血児が生まれ、遺伝子を調整された彼らはもう見た目はただのダゴン人だが、まるでそれが素晴らしいことであると吹聴される世の中になってしまった。街中でダゴン人と地球人のカップルが闊歩し、公園ではダゴン人の子供たちが地球人に混ざって遊んでいる。

しかし無邪気な顔で走り回る彼らは、最早人間ではないだろう。おっと、こんなことをおくびにでも出そうものなら、私は古い考え方の持ち主だと言われてしまうかもしれないから、黙っていよう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4461o/>

もはや人間ではない

2010年11月21日04時36分発行